

2017年度 学校法人 三幸学園 大阪リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西鶴 和博

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・社会で通用する人材育成(就職率・検定/資格取得率の向上・退学率の低減)
- ・募集目標の達成
- ・産学連携活動の強化(企業と連携した授業展開・ラグビーW杯、オリンピックに向けた取り組み)

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・企業により求められる人材は違うので、それを学校として把握した上で生徒に紹介していくことが大切。そのためには卒業後の定着率も確認した上で生徒への指導を行ってほしい。
- ・トレーナーは社会性が大切なので挨拶や礼儀についても学生のうちに身に着けることが将来につながると感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・卒業後の活動領域が広がっており、各学科の教育目標をより明確にしたうえで、企業の求める人材像を実現するための教育目標に反映していく必要がある。

② 今後の改善方策

・業界への理解を深めることで、業界の求める人材像を理解し、就職先と育成人材像を結びつける。

③ 特記事項

・業界ニーズを学ぶために、産学連携としてフィットネスクラブを提携し、業界の即戦力となる人材育成のためのカリキュラムを共同開発している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・理念を周知・浸透させるためには、言い続ける・確認し続けることが重要であり、いろんな場面で、学校の理念やキーワードとなる言葉を出し続けていくことが大事だと感じる。

・AIが普及してきており、仕事の一部はAIにもできるようになってきているが、「感性」の部分は自分たちが勝負できる部分。その部分をしっかり育てる必要があると感じる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システムを使用することで業務の効率化に努め、教職員間での業務分担を進めているが、依然として個人業務に時間がとられ、生徒・教職員・取引先とのコミュニケーションに使える時間を増やせていない。

② 今後の改善方策

・積極的に WEB 会議などを活用し、姉妹校との連携、情報の共有を行い、会議の効率化を図る
・さらなる業務の棚卸を実施し、優先順位を設けながらコミュニケーションの時間をより確保していく。

③ 特記事項

・年に 3 回全教職員による会議を実施し、情報共有や運営方針の浸透を図っている。
・昨年度頂いた「業務の棚卸」を実施し、教務事務職員を 1 名採用した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・コミュニケーションは、意見を出しやすい環境において時間を決めて実施していただくことが大事だと考える。
・デジタルをうまく活用し、情報の共有などは効率化を進めるとよい。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・業界の動向や求める人材像に基づき、教育目標や育成人材像を設定していくにあたり、卒業生や教科担当から情報を共有することで更に精度を高めていく。

② 今後の改善方策

・企業や関連団体とより関係性を高め、業界の最新情報を常にキャッチできる状況をつくり出すために、ボランティアや就職活動時の情報収集なども含め、企業・関連団体とのコミュニケーションを積極的にとっていく。

③ 特記事項

・H31年度のカリキュラム改訂に向け、学園全体としてプロジェクトが進行中。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学校側とコミュニケーションをしっかりとりたいという企業は多いと思うので、お互いに求める人材や教育内容についてなど積極的に話をして関りをもっていくとよい。

・同じ業界内でも企業によっても求める人材は大きく異なるので、情報収集とそれを共有できる仕組みが必要だと感じる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格試験の受験率及び資格取得率の向上。
- ・退学率のさらなる低減。入学後GAPの低減。
- ・卒業生の活動・活躍についての情報収集と教育現場への反映。

② 今後の改善方策

- ・入学時オリエンテーションにて基礎学習への動機づけパートを実施
- ・退学防止のための講演会の開催(モチベーションの維持・向上)
- ・資格取得の意味や意義を理解するために取得に向けての動機付けとともに、教科担当を協力し、摸試の結果を共有することで、タイムリーに必要な対策をとっていく。
- ・属人的ではない卒業生の活動状況の把握方法を確立。(人材バンク制度が進行中)

③ 特記事項

- ・QUを利用したクラス運営に関わるワークを実施。
- ・企業から卒業生リストを共有いただいている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・資格取得に対して、「その資格をとったらどうなるのか」「どういったことに活かせるのか」ということを理解し、取り組むことが重要だと感じる。
- ・業界としては昨年度から始まったフィットネスクラブマネジメント検定に力を入れている。企業も社員に受験を勧めている状況なので学校としてもぜひ取り組んでほしい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

① 課題

・卒業生への支援体制について情報発信手段、方法が確立されていない。

② 今後の改善方策

・在校中に使用していた連絡アプリによる定期的な情報配信を実施。合わせて卒業生SNSのさらなる認知と活用。
・卒業後教育のさらなる充実をはかる。

③ 特記事項

・担任による個人面談(最低でも年1回)、保護者への電話連絡(学期はじめ)を実施している。
・経済支援制度の継続。
・卒業生向けのスキルアップセミナーを年2回実施。
・学園として人材バンクの運用を現在進行中。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業生が卒業後も学校に来やすい環境を作るといいのではないかと感じる。
・科目履修のような形で卒業後も学校で勉強ができるのであれば非常に魅力的であり、需要もあると感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・生徒数増に対応した施設(座学・実技)のさらなる整備。
- ・さらに現場に近い質の高い教育を実現するための教育環境を整備する。

② 今後の改善方策

- ・より社会や業界のニーズに対応した教育を行うための教育ツールを企業と連携して開発、整備する。
- ・年1回の避難訓練の継続。

③ 特記事項

- ・2号館マシンルーム、3号館教室の増築を実施。
- ・1、2、3号館へのwifi設置により、よりIT機器等を使った授業を推進する。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・デジタル化を進めるのはもちろんだが、それだけでなく新聞や雑誌などアナログなものからも自ら情報を取りに行ける仕組みも必要だと感じる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・入学後の学生の状況・また卒業後の進路などの情報を、タイムリーに母校の学校に情報を伝えられていない。

② 今後の改善方策

・学校の広報担当者が、高校訪問の際により詳しく現在の状況を伝えられる仕組みを構築する。

③ 特記事項

・高校で実施のガイダンスの際には、出身者を把握の上、進路の先生へ現在の様子などを共有している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令遵守を推進

② 今後の改善方策

・会議などを通し、全教職員に関係法令等の把握と法令遵守に対する啓蒙を継続的に進めていく。

・問題点への取り組みに関して、進捗状況を役職者・学科内で随時把握し、改善に努める。

③ 特記事項

・H27年度自己評価より公開を開始。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

・学校の施設を利用し、一部企業には活動の場を提供しているが、地域や一般の方に向けた講座が少ない。

② 今後の改善方策

・地域貢献につながる公開講座の実施を検討。

・H29年度よりキッズ空手教室を運営しており、周辺地域の方に認知・周知を図ることで発展をさせていく。

③ 特記事項

・学校の実技実習施設は、地域の方の災害時の避難場所に指定いただいている。

・ボランティア活動の依頼は多く、教育成果を発揮するいい機会となっている。また、学生の活動実績が就職活動の際に成果として現れている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度いただいた貴重なお意見をもとに、今後の学校運営に活かしていきたい。